

## 大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

### 1 学校運営の中期目標

#### 現状と課題

日常の学校生活において、生徒の多くが登校時間の定刻までに登校することができており、すすんで挨拶を行うことや、落ち着いた態度で学校生活を過ごすことができている。そのため、過去数年間において、暴力行為による事件は0件と、発生していない。また、授業や諸行事はもちろんのこと、学校生活のあらゆる場面において、生徒が主体的・積極的に活動に参加し、なかまと協働して取り組むこともできている。そのため、校内調査における「学校の規則を守っている」に対する生徒の肯定的回答の割合は、95.0%と高い。

その一方で、不登校生徒の割合は令和6年度においては11.8%と、小規模校（全校生徒数219人）の割合として捉えると、決して低い数値であるとは言い切れない。さらに、授業中は集中して積極的に取り組むことができているが、それが家庭学習に結び付き、充実されているかとの面から捉えれば、校内調査における「家では自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答が52.8%に留まっており、十分に果たされているとは言い難い部分がある。また、年度当初に実施された全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答をする生徒の割合は86.5%であったが、年末に実施した校内調査における「自分には、良いところがあると思う」に対する肯定的な回答をする生徒の割合は、77.8%と減少した（学校全体では73.8%）。ことからみれば、毎日の活動における取組みの結果が、生徒自身の自己肯定感を高めることに有効に機能させるためには、まだ改善の余地がある。

このような現状において、本校生徒の優れている点をさらに育み伸ばすことと並行して、課題改善に向けて生徒に達成感や成就感を味わわせる指導を重視していく。学習面では英語科を校内研究授業の軸に位置づけて「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、さらなる学力の向上とともに、「できた」と思える機会を多く作り出すことで、生徒の自己肯定感を育んでいきたい。生活面では、SCやSSWと担任を中心とした学年団が連携を密にして取り組むことで、不登校生徒だけではなく、配慮や支援を要する生徒へのサポートへつなげ、だれ一人取り残さない教育へつなげていきたい。

これら、確かな学力の定着と自己肯定感の向上を基盤として、「知・徳・体」の調和を図り、健全な育成へつなげるため、全教職員が一体となって教育活動を展開していく。

#### 中期目標

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の校内調査における「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を89%以上にする。
- 年度末調査における不登校生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 令和7年度の校内調査における「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を77%以上にする。

##### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の校内調査における「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深め、広げることができている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。
- 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語・数学ともに平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より上回る。
- 令和7年度の校内調査における「保健の知識や運動によって、心身の健康を意識することができた。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。

##### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を40%以上にする。
- 令和7年度の校内調査（保護者）における「学校は、地域・家庭に出向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を93%以上にする。

## 2 中期目標に向けた年度目標

### 【安心・安全な教育の推進】

- 年末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を83%以上にする。（令和6年度 80.1%）
- 年末の校内調査における「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を89%以上にする。（令和6年度 86.6%）
- 年末の校内調査における「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。（令和6年度 73.8%）

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 年末の校内調査における「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深め、広げることができている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。（令和6年度 88.5%）
- 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語・数学ともに平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より上回る。

77期生（令和6年度 国語 1.13% 数学 1.10%）	76期生（令和6年度 国語 1.14% 数学 1.11%）
-------------------------------	-------------------------------
- 年末の校内調査における「保健の知識や運動によって、心身の健康を意識することができた。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。（令和6年度 93.5%）

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。ただし、事務局が定める学校行事等ICTが適さない日数を除く。（令和6年度 1.1%）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を35%以上にする。（令和6年度 30%）
- 令和7年度の校内調査（保護者）における「学校は、地域・家庭に出向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を91%以上にする。（令和6年度 88.0%）

## 大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A;目標を上回って達成した	B;目標どおりに達成した
C;取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D;ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 年末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を83%以上にする。（令和6年度 80.1%）</li><li>○ 年末の校内調査における「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を89%以上にする。（令和6年度 86.6%）</li><li>○ 年末の校内調査における「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。（令和6年度 73.8%）</li></ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標		進捗状況
① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者・地域と連携を図り、いじめ・問題行動を生まない学校づくりを推進する。		
指標 毎日の観察及び各学期に実施する調査や教育相談により早期に発見・対応することで、年度内において100%解消する。		
② 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者に対する家庭学習における学習支援や子育てについての情報提供を行う。		
指標 校内調査(保護者)における「学校は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる。」に対して、最も肯定的な回答をする保護者の割合を45%以上にする。(令和6年度 41.8%)		
③ 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者・地域・区役所・消防署と連携し、合同避難訓練及び災害時対策訓練を実施する。		
指標 校内調査における「自然災害、事故が発生した時、どうしたらよいか日頃から考えている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。(令和6年度 66.5%)		
④ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 挨拶をはじめとする基本的生活習慣を意識させることで、道徳的規範意識の高い集団を育成する。		
指標 校内調査における「学校は、礼儀や道徳、マナーの大切さを教えてくれている。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。(令和6年度 69.0%)		
⑤ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 学級・学年活動及び学校行事を通じて集団の一員との自覚を育成し、互いを認め、高め合う集団づくりを推進する。		
指標 校内調査における「学級でみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。(令和6年度 68.2%)		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

#### 大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A;目標を上回って達成した	B;目標どおりに達成した
C;取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D;ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p>○ 年末の校内調査における「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深め、広げることができている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。(令和6年度 88.5%)</p> <p>○ 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.1%上回る。</p> <p>77期生（令和6年度 国語 1.13%） 76期生（令和6年度 国語 1.14%）</p> <p>○ 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.1%上回る。</p> <p>77期生（令和6年度 数学 1.10%） 76期生（令和6年度 数学 1.11%）</p> <p>○ 年末の校内調査における「保健の知識や運動によって、心身の健康を意識することができた。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。(令和6年度 93.5%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標		進捗状況
① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 指導形態や教材を工夫し、基礎学力の定着を図る。また低学力生徒や配慮の必要な生徒に対して、補充学習を実施する。		
指標 校内調査における「先生は、授業やテストでの間違いや理解していない部分について、わかるまで教えてくれる。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を60%以上にする。(令和6年度 56.5%)		
② 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教科において「主体的・対話的で深い学び」を達成するための教材研究および授業展開を検討する。		
指標 学力向上サポート事業を活用し、教員校内研修(公開授業参観)を全教員が実施する。 校内調査における「先生は、授業内容や教え方を工夫している。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を77%以上にする。(令和6年度 74.0%)		
③ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 インプットした知識を活用し、自らの意見や考えを構築し、アウトプットさせることにより、生きて働く知識・技能を育成する。		
指標 校内調査における「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。(令和6年度 59.8%)		
④ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 保健体育科の授業や学校行事を通じて、心身の健康に対する意識を高めるとともに基礎的な体力を向上させる。		
指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価A及びB判定の割合の合計を40%以上にする。 (令和6年度 男子22.7%、女子42.9%)		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

#### 大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A;目標を上回って達成した	B;目標どおりに達成した
C;取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D;ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】  ○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。ただし、事務局が定める学校行事等ICTが適さない日数を除く。(令和6年度 1.1%)  ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を35%以上にする。(令和6年度 30%)  ○ 令和6年度の校内調査(保護者)における「学校は、地域・家庭に出向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を91%以上にする。(令和6年度 88.0%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標	進捗状況
① 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 授業や学級活動で効果的にICTを活用することで生徒の意欲を引き出し、何事にも積極的に取り組む姿勢を育成する。	
指標 校内調査における「授業には、興味・関心を持って意欲的に取り組んでいる。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を88%以上にする。(令和6年度 86.0%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点